

第1回「社会教育人材ネットワークを活用した地域づくり活性化事業」検討会議 議事録

日 時 令和8年(2026年)7月29日(水) 10:00～11:30

場 所 オンライン(配信:北海道立生涯学習推進センター)

出席者 別添「出席者名簿のとおり」のとおり

説 明 北海道における社会教育人材ネットワークの在り方について

事務局(森主査。以下、「事務局」という。)から資料1-1、1-2、1-3に基づき説明
質疑応答

(金子委員) 社会教育士の追跡調査はどのように行うのか

(事務局) 今後社会教育士の人材リストを作成し、その中でウェブフォームによるアンケートを実施

(金子委員) 現在の成果目標の数値は、どの程度か

(事務局) 追跡調査と同様に、今後社会教育士に対するアンケートを実施

話題提供 地域課題の検討～事例研究①「市町村におけるネットワークの現状について」

(1) 野本委員から資料4に基づき説明

- ・安平町において、安平町立早来学園の開校に当たり、地域住民の理解を促すため、地域学校協働本部(あびらコラボネット)のキックオフミーティングを3月に実施。
- ・安平町の10年後を見据えた社会教育の在り方を想定した取組を実施。
- ・安平町では、どんな子どもも安平町で育った子どもにとっての「ふるさと」と認識。
- ・地域・教育コーディネーター養成講座を実施し、地域住民が地域学校協働活動に参画できるよう取組を加速。

(2) 金子委員から資料5に基づき説明

- ・基礎自治体では、多忙間がある中、スピード感や丁寧さが求められるため社会教育人材のネットワークなど様々な連携が重要。
- ・業務遂行のためには、社会教育士などの社会教育人材が持つコーディネート能力やコミュニケーションの能力が必要。
- ・一方、対話のコーディネートの重要性の認知が少なく、社会教育士のスキルが十分生かされていない状況。
- ・役場、村全体が「社会教育的アプローチ」を共通言語として、理解・活用できる土壌が必要。

その他

- 事務局から10月17日(土)開催の「北海道つながる学びフォーラムについて」の説明と参加奨励
- 事務局から、次回は10月に開催するため、日程調整を行う旨、説明
- 本間委員から、委員同士がつながることができるようチャットを使用したい旨、発言